

第6分科会 第17回運営委員会記録（概要）

平成18年4月15日（土）：正午～午後1時

清掃事務所 会議室：（進行）高野座長

1 参加委員（敬称略）

- ・区民委員：（1班）入江雅子、小宮一夫（2班）河村寛二、鈴木幸展（3班）梶村勝利（4班） - （5班）竹折富美子、森田忠幸（6班）上田尚子、高野 健
- ・学識委員（三田、伊藤、土屋）

2 議事（概要）

（1）世話人会編集部会の報告について

- ・土屋委員から編集部会での決定事項の報告があった。
- ・第3回編集部会で全体的な提言の構成についての議論が定まりつつある。（大項目や中項目の数や文章の書き方など）しかし、6分科会として提案してきた“現在の計画体系に基づく”というものではなく、区民会議全体の意見をどうまとめるかという視点での構成になった。現段階では、前回の運営会議で課題とした「多文化共生の新章立て」については、全体提言の中では中項目となったため、第6分科会全体としての議論にはならないのではないか。
- ・編集部会の位置づけ、決定権が分からない。
テーマ設定（大項目など）や書式などを検討し、出来上がりイメージをもって世話人会に諮ることになっている。スケジュールからも実質的には編集部会が決定することになる。
- ・編集部会の4つの大項目（いわゆる章立て）については、どういう意図があるのか。分かりにくいし、“なにか違うという”感じが強い。
まちづくり（ハード面、都市マス）に関連している。仮題なので今後変更が予想される。
- ・行政は、現行の計画体系と違う提言をどう扱うのか。
提言を最大限尊重することを約束している。基本構想と基本計画は、基本構想審議会に諮問し、その答申をもって最終的な案を策定することになる。
- ・土屋委員、高野リーダーとともに第6分科会のこれまでの方針（現体系を評価し、区民視点からどうあるべきか“考え方”“方向性”計画体系上に具体的に示すことで改善につなげ、取り入れられたどうかを明確にする。）を繰り返し、訴えてきたが編集部会としては受け入れられなかった。これは、区民会議スタート時からの仕切り方に問題があったこと、さらに他分科会が現段階では修正が不可能ということでもある。
- ・編集部会の決定のなかでは、それでも第6分科会の提言部分は確保されているので、これまでの検討成果を示すことは可能と考える。

（2）第18回分科会会議の進行方法について

- ・積み残しになっている課題の確認、詰め方について検討した。
- ・課題は中間発表資料集に掲載しているものを基本にその他意見があるものも対象とする。

- ・集約方法は、各テーマについて班ごとに課題の確認、意見集約を行い模造紙に書きだす。
- ・上記の結果を見ながら、意見を取りまとめていくこととする。時間配分も状況を見ながら判断することとする。